

令和8年6月18日(木)

14:00～15:00

オンライン開催

季節調整値について

- ◎ 2026年4－6月期以降の季節調整において採用すべきモデル及び2027年4－6月期以降の季節調整からX-13ARIMA-SEATSを用いることについて、高岡先生より検討結果の報告(資料2)を行っていただいた。
- ◎ 委員からの主な意見
 - ・ 季節調整に利用するデータは、今年度から30年分に変更したということか。またその場合、以前は何年分使っていたのか。また、モデルを変更した後、過去に公表した季節調整値は遡及改定せず、新たに公表する数値のみモデルを変更するという理解でよいのか。
 - 2025年4－6月期の公表データから利用期間の見直しを行い、当期を含む直近120期分のデータを用いて季節調整を行っている。見直し前は1985年4－6月期からのデータを全て利用していた。なお、每期遡及改定して公表している。(事務局)
 - ・ GDP統計ではコロナ禍のダミー変数を入れている可能性があるが、そことの整合性は考慮しているか。法人企業統計ではコロナの影響はほとんど考えられず、営業利益の上振れなどはノイズとして推定されたものが季節調整値に出たという解釈か。
 - GDP統計との整合性は検討していない。直近にダミー変数を入れると有意に出るが、今後こうした傾向が続くようであれば、モデル選定で吸収されていくのが自然だと考える。
 - コロナ禍のダミー変数については過去に検証を行っており、製造業及び非製造業それぞれの売上高、経常利益及び営業利益の計6系列においてRP変数を入れている。(事務局)
 - ・ モデルが変更となった系列については、時系列のどの成分が変更に影響したのかの分析も行っていたきたい。短期的に変動するパラメータと長期的に変動するパラメータがあり、変動の要因を分析することが安定したモデルの選択に繋がる。
 - ・ X-13ARIMA-SEATSへの移行については、センサス局では既にX-12-ARIMAを配布していないため、移行は妥当と考える。
- ◎ 事務局まとめ
 - ・ 2026年4－6月期以降の季節調整において採用するモデルは資料1の改正案のとおりとする。
 - ・ X-13ARIMA-SEATSの導入については、現在使用しているX-12-ARIMAでの季節調整結果と比較して、大きな乖離は生じないという結論が得られた。このため、統計委員会評価分科会での議論も踏まえつつ、2027年4－6月期からの移行を目指すこととする。
- ◎ その他
 - ・ 欠測値補完方法の改善について、2018年以降に研究会で議論いただいていたところ、2026年9月公表の2025年度年次別調査及び2026年4－6月期調査分から実施することとなった。近日中に、委員に確認いただいたユーザー向けのアナウンス文書を弊所ホームページに掲載する予定。(事務局)

(以上)